言葉の力

甲府市立南西中学校二年　　依田　茉優

日本には、「いじめ防止対策推進法」という法律がある。そのなかで「いじめ」は、「一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。」と定義されている。いじめは日本だけではなく、世界各地で起きている問題だ。しかしこれまで、私の周りでいじめを受けている人がいるという話は一度も聞いたことがなかった。だから私は「いじめ」は縁遠い存在だと思っていた。いじめを甘く見ていたのだ。しかし、今年に入って、私自身がSNSを利用して悪口を書かれるようになった。

中学二年生に進級して二ヶ月ほどたったある日のことだ。SNS上に匿名でメッセージを送ることができる「質問箱」のアプリがある。そのアプリを通して私宛に大量の悪口が送られてきた。メッセージは一通だけでなく何通も送られてきた。中には、「さっさと死ね」「早く転校しろ」「胸にナイフ刺してやる」といった心無い言葉もたくさんあった。私は怖くなった。目を真っ赤にしてたくさん泣いた。誰にも相談できずに悩んでいた。しかし、何日か経って、「いつまでもクヨクヨしているわけにはいかない」と感じた。匿名性を利用して人を傷つける人に負けてはいけないと思った。そこで私はSNSを閲覧出来る人を限定し誹謗中傷をしないよう注意書きをSNSに載せた。こうした対策をしてしばらくは悪質なメッセージが送られてこなくなり、安心していた。しかし、数日経つとまた同じようなメッセージが送られてくるようになった。「まだ転校しないのか」「三日以内に死なないと殺すぞ」など、前回よりもひどい言葉が並んでいた。そうしたメッセージを目にする度、つらくて、いなくなりたいという気持ちでいっぱいになった。しかし、私を傷つける人ばかりだったわけではない。私のことを心配してくれる人が何人もいた。「あんなこと言ってくるやつなんかに負けるな」「溜め込まないで相談してね」など励ましてくれた。中には、私よりも怒ってくれる人もいた。そうした言葉はとても心強かった。なんだか心がスッと軽くなった感じがして、救われた気がした。学校に行っても友達が心配してくれたり、一緒に行動してくれたりと、とにかく楽しくさせてくれた。私はそれがすごく嬉しかった。ひとりじゃない、私には心強い友達がいるんだと実感することができた。

結局、誰がそのメッセージを送っていたのかはわからないままだ。私の身の

回りに悪質なメッセージを送ってきた人がいるかも知れないと思うと、とても怖い。現在は悪口が書かれたメッセージが送られてくることはたまにしかない。当時は誰が送ってくるのか知りたいと言う気持ちがあったが、いまはもうない。けど、今後、また同じようなメッセージが届く可能性がある。しかし、今の私はそうしたメッセージが届いたとしても、「私のことを嫌いなくせに、私に構う暇があるなんて悲しい人なんだな」と思うことにした。そうすれば、深く考えすぎて悩むこともないし、自分を強く持つことができるだろう。

世の中には、集団でいじめを受けて、それに耐えて耐え続けた結果、『死』という選択をする人もいる。それは、中学生・高校生だけでなく、私よりも小さな小学生もそうだろう。一部の人間の、『嫌い』『ムカつく』『気に入らない』という感情が、人を簡単に『死』へ追いやることができてしまう。そんな恐ろしいことが実際に事件として報道されている。

いじめの現場に遭遇しても、「いじめはよくない」「あなたの行為は間違っている」と声をかけなければ、事態はいじめている人たちの思惑通りに進んでしまうだろう。見て見ぬ振りをするのはいじめをしている人に加担することになるのではないだろうか。だから、取り返しのつかない事態が起こる前に一人ひとりが言葉の重みについて知り、いざ自分がいじめを目の当たりにしたらどうすれば良いか考える必要があると思う。

私は、自分に起きた出来事を通して、いじめは誰の身にも起こりうるのだと感じた。いじめは絶対に起きてはいけない。いじめをして良いことなど全くない。だが、いじめがない世界の実現はまだまだ遠いだろう。しかし、何も対策がされていないわけではない。いじめが起きて悩んでいる人のための取り組みや支援は、少しずつだが社会に浸透してきている。少しでもいじめが減り、誰にとっても明るい未来が切り開けるよう、自分に出来ることを見つけたい。今度いじめられている人を見たら、どこまで力になれるかはわからないけれど、「自分もいじめられるかも」と恐れずに声をかけたい。

私がみんなの力強い言葉に救われたように、一人でも多くの人を温かく、力強い言葉で、救いたいと思う。